

## 「イクメンプロジェクト」第3回「イクメンの星」に選定された方々

ニックネーム	優パパ
職 業	会社員
年 令	41歳
育休・育児体験談	
<p>2007年秋、子供が1歳になり妻が復職。夫婦ともにサービス関係の仕事に従事しており、休日・出社の時間等が不規則というなかで、育児・家事全般について夫婦で分業する生活がスタートしました。</p> <p>仕事柄、家を空けることも多い妻に代わって食事の支度をするこもしばしば…。簡単かつ子供が喜んで食べてくれる離乳食づくり、仕事前後の送り迎え、就寝前の絵本読みなど、大変なことも多かった（現在も継続中）けれど、私の両親・妻のお母さんの協力もあり、保育園に入れない状況を何とか乗り切ってきました。</p> <p>育児をするなかで痛感したことが、これまで自由に使えていた時間が大きく制約されるということ。入社以来、飲み会の誘いを断ることは稀でしたが、妻の復職後は参加機会も激減。今考えると、私の勤務先にも女性従業員が数多く働いており、育児関連諸制度の利用者も数多くいますが、「育児の主体的な担い手のみなさんが、当たり前のように開催される日本的な夜の会合をどのような想いで見ていたのかな？」などと考えると複雑な心境になります。今も多少後ろ髪を引かれますが、スケジュールが合わないときは仕方がないと割り切り、できるだけ早く子供を迎えに行くことができるようにと頑張る毎日です。</p> <p>こんな生活の副産物として、時間の使い方が上手くなりました。もともと計画的に時間を使うことが苦手でしたが、子供の就寝後に読書や晩酌の時間を確保、社会人大学院通学時は、早朝に起床し、洗濯機を回しながら課題に取り組むなどの進歩がみられました。</p> <p>子供に寂しい想いをさせてしまうときもありますが、父親として関わるときはしっかりと関わりながら、子供との時間が一般的なお母さんよりも少なく、寂しく感じながらも前向きに仕事に取り組んでいる妻をサポートし、もちろん自身の仕事も子育てを理由におろそかになることがないよう、子供とともに成長できれば良いな～と考えています。</p>	

ニックネーム	星野就一
氏名	星野就一（ほしの しゅういち）
職業	会社役員
年齢	41歳
育休・育児体験談	
<p>2007年10月、双子の男の子が誕生した。就太は、生まれる前に肺に便が入り、自発呼吸ができず、即NICUに入った。</p> <p>生まれたときは2000g。優太は、2200gで、元気でよかった。</p> <p>就太に母乳を届けるために、1か月間、朝と夕方に病院へ通った。子どもの命のためと思うとなんでもできた。</p> <p>このときから、仕事より子どもが大切だと思い、収入は減るが週3日の勤務とした。</p> <p>子どもの成長に合わせて、働くスタイルを自分で選んでいこうと決心した。</p> <p>二人の息子たちは、スクスク育っていった。お父さんとしての喜びは、初の寝返りが、朝起きたときに優太がゴロンってできたとき。そして、1歳1か月たったときに、夕飯の後に就太が、パッと立ち上がり、家族全員の歓声があがった。優太も負けじと立ち上がった。このときの一瞬は、かけがえない喜びだった。写真の連続撮影の嵐！なかなかお父さんとしては味わえない。</p> <p>1歳半で保育園に預けることができたが、初めは大泣きする子どもたちを背にして仕事へ行くことが苦しかった。しかし、もうすぐ3歳になる息子たちは、保育園という社会に出てなんでも吸収していることがうれしい。</p> <p>お父さんは、朝食の準備と、保育園の送り迎えが日課である。子供たちへの食事、しつけ、ぐずったときの対処に頭を悩ましている毎日が続いているが、やっぱり妻が私の先生である。</p>	